(一財) 日本ヘルスケア協会から

発行：日本ヘルスケア協会 事務局

今回は5月11日の前回定時記者会見以降の動きについてご報告いたします。

1. **野菜・果物等の店頭POP表示Pjt.**は、ほぼ順調に進捗しています。
 - 店頭での表示実験を開始した店舗では、表示内容に関するお客様からの反応・評価が続々と得られています。実験終了時点まで大切に分析を進めていきます。
 - 愛知県にある大型ナチュラルフードストアでは、5月10日、名古屋市内の店舗を皮切りに、今後合計5店舗で実験が行われます。
 - その他、既に北海道の農産物直売所、茨城県本社の食品スーパーの千葉県内新店で実験が行われています。さらに、福島県本社の食品スーパーでは6店舗での実験が6月中の実施を目途にラインアップしています。
 - 一部の店舗では、緊急事態宣言延長の影響が出ていますが、既に勉強会を終えた愛知、広島、埼玉、北海道の食品スーパー、徳島の農協スーパー等での実験がこの後、予定されています。
 - 一方、生活者・消費者に向けた野菜摂取の啓発ムック本は、野菜・果物のやさしいイメージキャラクターを取り込んで、6月中を目途にまず関係者向けの第1版が出版されます。
 - 2025年大阪・関西万博との取り組みは、近々JAHl内に立ち上げが予定されている「万博対応委員会（仮称）」において、協会全体として検討していきます。
2. **(一社) 次世代FVC研究所との共催セミナーは無事6月5日(土)午前に開催されました。**

一般社団法人次世代FVC研究所はフードバリューチェーンに立脚した次世代の農業経営や農業ビジネスの実現、周辺事業を含めた産業の創造を目指して2020年6月に設立され、JAHlとは本年3月に共同セミナーの開催業務に関する基本契約を締結しています。

今回は共催セミナーの第1回目として、「野菜・果物を機能性（はたらき）で選ぶ～抗酸化表示が変革する日本農業とフードバリューチェーン」を総タイトルとしたオンラインセミナーを開催しました。

冒頭で研究所の加藤芳男研究員から、米国における90年代の野菜・果物の抗酸化表示が消費量の拡大に大きな役割を果たしたことを契機として、日本国内での抗酸化表示が組み込まれたが社会実装には至らなかった過去の経緯・背景と、それを踏まえたこの度のサンドボックス実証実験の重要性が説明された後、JAHl・丹羽真清理事のキーノートスピーチが行われました。丹羽講師は、「健康の基本は農業から」のチャートを基に、医・食・農・工・理の連携による次世代サプライチェーンマネジメントシステムの構築を提唱した上で、今回の実証実験のねらい、概要、進捗、課題等が講じられました。

次いで、新たなフードバリューチェーンの構築に向けてのパネルトークとして、日本健康食育協会・代表理事の柏原ゆきよ氏、次世代FVC研究所研究員の切田澄礼氏を交えて、野菜・果物の生産・流通・消費の現状の問題点、今後のあるべき方向性に関する議論が行われました。登録聴講者数は314名、後刻アーカイブが準備されます。
3. **その他の動き**
 - (1) 今秋WEBで開催予定のJAHl活動発表会については、各部会・研究会と個別に出展の折衝を開始しており、既に8本のコンテンツの提案が出されています。他の部会・研究会からも6月いっぱいコンテンツの提案を募り、7月に動画撮影・編集の作業を行います。
 - (2) 「健康まちづくり部会」の第1回会合は5月24日(月)午後開催され、帝京平成大学のある「中野」でまちづくりのモデルケースを構築することで部会の合意がなされました。今後、中野区に拠点のある明治大学、区医師会、帝京平成大学当局・学生グループ、区内所在企業等を巻き込んでまちづくりの実体を組み立てていきます。
 - (3) 7月の定時記者会見は最近にわかに注目を集めている「医農科学」に関して、(株)アグリガーデンスクール&アカデミーの堂脇広一社長が紹介します。